

# 令和3年度 総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会  
委員長 高田 真里

1 視察期間 令和3年11月16日(火)

2 視察先及び視察事項

(1) 富山市科学博物館

「プラネタリウムの更新について」

(2) 富山ガラス工房、富山ガラス造形研究所

「「ガラスの街とやま」の推進について」

3 視察参加委員

委員長	高田	真里
副委員長	松井	邦人
委員	織田	伸一
〃	田辺	裕三
〃	高道	秋彦
〃	大島	満
〃	村石	篤
〃	佐藤	則寿
〃	高田	重信
〃	赤星	ゆかり

4 随行職員

議事調査課議事係長	酒井	優
議事調査課主事	江部	なな恵

## 5 視察概要

### (1) 視察事項

- ・プラネタリウムの更新について
- ・「ガラスの街とやま」の推進について

### (2) 視察の目的

#### 富山市科学博物館

富山市科学博物館のプラネタリウムでは、昭和54年の開館以来、展示機能を数回にわたり更新し、平成21年に現行のデジタルプラネタリウムが導入された。

このたび、プラネタリウムの総合的な魅力向上と、導入から12年が経過した機器の老朽化への対応としてプラネタリウム投影設備等の更新を業務委託により行うこととなったため、現在の投影設備および現行と更新後との変更点を確認することにより、当該事業への理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

#### 富山ガラス工房、富山市ガラス造形研究所

富山市では昭和60年の「市民大学ガラス工芸コース」の開講を皮切りに、30年以上にわたり「ガラスの街とやま」として様々な取組を行ってきた。

平成3年4月に全国で初めての公立のガラス造形教育機関として開校した「富山ガラス造形研究所」、平成6年4月に開業し、ガラス作家の育成やガラス工芸の普及啓発に取り組む「富山ガラス工房」を視察し、当該事業への理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

### (3) 取組の概要

#### 富山市科学博物館

富山市科学博物館のプラネタリウムでは、映像番組の投影や学芸員による星座の生解説番組のほか、幼児向け投影や小学生を対象とした学習投影などを実施している。

プラネタリウム観覧者数は、令和元年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大幅に減少しているものの、平成30年度には約9万3,000人が観覧した。

プラネタリウム投影設備等の更新に当たっては、本物に近い星空の共有や快適性とエンターテインメント性を両立した学びの空間などといった方針に基づき、光学式とデジタル式の2つの投影システムを併用するほか、親子席やフラットエリアなどの導入も予定されている。

#### 富山ガラス工房

富山ガラス工房では、ガラス作品の制作販売、作家の独立支援、定住推進、ガラス工芸市場の開拓を行っている。

ガラス作品は、工房附属のショップやギャラリーでの展示販売に加え、百貨店等での店頭販売やオンライン販売も実施している。

また、ガラス作家の独立には大きな初期投資と継続的な仕事の受注が必要なため、手頃な料金で工房をレンタルするとともに、地元作家の作品を国内外で展示販売し、積極的に紹介する機会を設けている。

さらに、設備の維持管理や材料の仕入れ、販路ネットワークの拡大、展示会開催の人脈づくりなど、プロのガラス作家として必要な事柄を日常業務から学ぶことができるようにしている。

平成24年に開設された第2工房では、ガラス制作体験や講座、参加型イベントなどを開催している。

#### **富山ガラス造形研究所**

富山ガラス造形研究所では、ガラス専門の教育機関としてレベルの高い研究が行われている。造形科と研究科の2つの学科が設置されており、現在の学生数は40名である。これまで550名余りの卒業生を輩出し、その多くはプロのガラス作家として国内外で活躍している。

常任の教授・助手がそれぞれ5名在籍し、指導に当たっている。外国人教師からの指導が受けられ、国際的な視点でガラスについて勉強できることも特徴の一つである。

#### (4) 所感

[高田真里委員長]

プラネタリウムの投影システム更新は、光源を使って星がシャープになることや、寝ころびシートやペアシートなどの新設やステージエリアの拡大など、より市民に親しみを持っていただけると見込まれる。まちなか天体観察室が隣接されれば、さらなる相乗効果を生むものと期待する。

富山ガラス工房と富山ガラス造形研究所は「ガラスの街とやま」の基となる施設であり、外国の先生の招致など国際的な視点で、ハイレベルなガラス専門の人材を全国に輩出していることはすばらしい。市民が気軽にガラス細工づくりを体験できることをもっと周知し、さらなるガラス工芸の普及啓発を進められたい。

[松井副委員長]

プラネタリウムの更新では、以前より座席数は少なくなるが、光学式を導入することで本物に近い星空を再現できるようになり、天体に関する探究心がより深まると思われる。さらにステージエリアの拡大により新たな空間ができ、イベント等への活用が期待できる。

富山ガラス造形研究所はガラス造形作家を養成する学校で、これまでも多くの作家を輩出しており、卒業した後も富山に住んで創作活動が続けている人もおり、ガラス文化を富山に根づかせる役割を果たしている。さらに富山ガラス美術館があることで、一段とガラスの街とやまの推進につながっていると考える。

〔織田委員〕

プラネタリウムの投影設備は、現在デジタル式であり、星空も含め様々な動画や映像を映し出せる点においては網羅的であるが、星の明るさや色味の表現に劣る。今般の更新計画においては、光学式との併用となり、再現性においてはより本物に近い星空を体験することができるものとなる。より深い感動が探求心へとつながることが期待できる。また、ドーム型スクリーンに映し出す映像を利用したミニコンサートやヒーリング体験、商用プレゼンへの貸出しなど多様な活用方法も考えられる。幅広い柔軟な活用提案を求めたい。

富山ガラス工房と専門学校である富山ガラス造形研究所は連携して、学生の知識、技術の習得のほか、卒業後も作家として活動していくために必要な設備や材料、情報、販路等につながる人的交流など、より実践的なサポートを行っている。また、富山の文化から創り出す「色」にこだわり、独自の「富山曼荼羅彩」を完成させた。卒業生も随所で活躍されており、「ガラスの街とやま」の可能性は世界に大きく広がっている。今後はさらに産業化も進め、また、市民意識への浸透を図り、シビックプライドの大きな柱へ育つものと期待する。

〔田辺委員〕

富山市科学博物館におけるプラネタリウムの見学は、私の子どもが小学生の時以来、二十数年ぶりであった。映像設備も対応年数が切れることで新しい設備に更新されるということ。また、イベントなどの複合的活用もできるということで未来が広がって素晴らしいと感じた。

また、富山ガラス工房と富山ガラス造形研究所では、ガラスの聖地となる富山と技術指導の先生方、全国から集まる技術習得に熱意のある作家の皆様の取組に無知だった私は反省させられた。関心を持って今後の取組に協力していきたいと思う。作家を目指す方は女性が多いようにも感じた。

〔高道委員〕

富山市科学博物館で、プラネタリウムの更新について説明を受けた。今後デジタル式（4K）と併せて光学式（スターボール）を導入し、ステージ機能や観覧スペースの見直し等を図り、多様性にあふれた魅力的な施設となることで、市民の学びや憩いの場として活用されると考えた。

また「ガラスの街とやま」の推進では、両施設を見学し、工芸を担う人材育成や支援などガラスにまつわる歴史を学んだ。ガラスの魅力を、体験や作品を通し、国内唯一の専門教育機関として世界に発信し、さらなるシビックプライドの醸成へつなげていくことを期待する。

〔大島委員〕

全小学校の4年生にプラネタリウムを鑑賞させていると聞き、科学的好奇心を満たすために素晴らしいことであると思う。

初めて見たのは40年以上も前の五島プラネタリウムだったが、その感動を今も思い出す。最新の装置で、また現在のスタッフの情熱と企画で、子どもたちを星のとりこにしてほしい。

富山ガラス工房が30周年を迎えると聞き驚いた。

ガラス美術館やコンテストによって確実に芸術文化のレベルは上がっているが、市民の中に十分に浸透しているとは言えない状態であると思う。

市民の理解がなければ、これから先、工房や研究所を維持していくことはやがて困難になると思う。富山といえば〇〇ガラスとすぐに連想させるような、新しいネーミングやアイデアが求められると強く感じた。

〔村石委員〕

富山市科学博物館では、投影システムが更新され、本物に近い星空を見ることになり、子どもがワクワクして観察することができると感じた。

富山ガラス工房は、オリジナルの色ガラスを5色開発し、「富山曼荼羅彩（まんだらさい）」と総称している。私も発信していきたい。

富山ガラス造形研究所は、ほとんどが県外からの研究生であるが、活躍している作家プロフィールに研究所が記載されていることに誇りを感じた。

富山ガラス工房第2工房では、スタッフ2人の指導で、小学生が世界に一つの作品を制作している。もっと多くの小学生に体験してほしいと感じた。

〔佐藤委員〕

科学博物館のプラネタリウムは、これまでも学芸員を中心に企画からプログラミングまでを行ってきたが、2年前の本会議で、更新に伴うさらなる独創的な企画の展開を期待し質問した。ドーム映像施設付きの小ホールとしての貸出しやライブ会場としての活用もできると伺い、新技術と発想に感銘した。

ガラスの街とやまについては、ガラス造形研究所の開設以来、工房の増築や美術館の開設など着実な推進がなされ、特に人材の輩出や糾合は、今や世界にも広がる成果を収めている。そうした観点からも、研究所施設の更新の必要性も訴えていきたい。

〔高田重信委員〕

現在のプラネタリウムでも十分な機能があると思うが、機材のメンテナンスの期限もあり、更新が計画され様々な機能が刷新される。その結果、魅力が一層高まり観覧者数が大きく伸びるものと期待される。

富山ガラス造形研究所は本年30周年を迎え、これまでの卒業生の中には、日本を代表するガラス作家として活躍されている方も多く、大変うれしく思う。私が印象にあるのは、現代ガラスの先駆者である藤田 喬平氏の孫の創平氏の入学であった。

富山市は、「ガラスの街とやま」を標榜し、その成果は世界からも高い評価を受けていることに誇りを感じる。

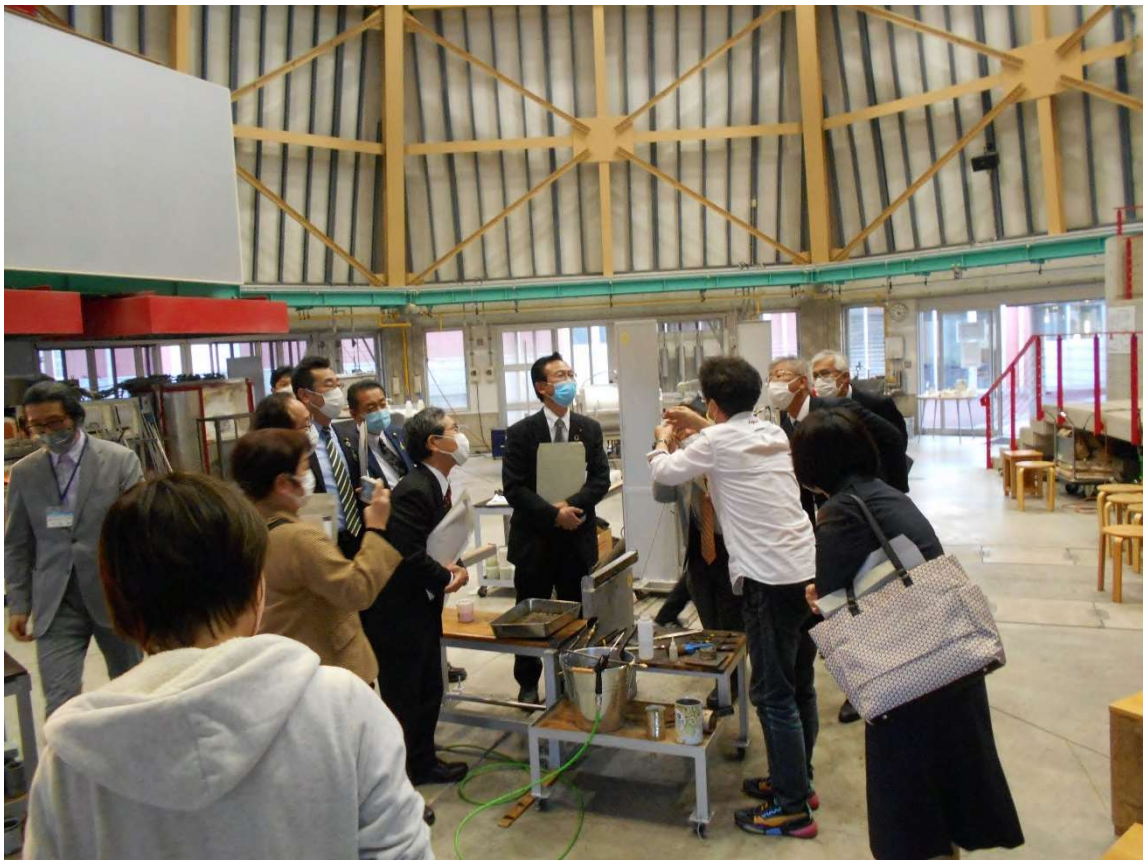
〔赤星委員〕

プラネタリウムは学芸員中心に様々な番組を工夫され、今日の星空解説も夜空を見てみるきっかけになる。入館料とプラネタリウム観覧料がセットで気軽に観る人が多く、人口当たり観覧者数が東京に次いで2位とのこと。リニューアルで光学式投影機を導入し、より本物に近い星空が見られるのが楽しみ。

富山ガラス造形研究所は30年の間に多くの卒業生を送り出し、造形所卒業生が独立した作家として富山ガラス工房で活動できる環境を整備し、多くの優れた作家が育ち、活躍されていることに感銘を受けた。このエリア一帯が夢生産拠点のような素敵な空間。



富山ガラス工房





富山ガラス造形研究所

